

## 「リサイクルの町から、世界の未来を作る町へ。」

寄付総額: 1 億 592 万円 (2021 年度 : 4,600 万円、2022 年度 : 5,992 万円)



大崎町は、約 20 年に渡って住民、企業、行政の連携による分別リサイクルを実践してきており、リサイクル率日本一、82.6% (2019 年時点) を達成しています。

これまでの取り組みが評価され 2018 年に「ジャパン SDGs アワード内閣官房長官賞」を受賞、2019 年には「SDGs 未来都市」「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。2021 年 3 月には一般社団法人大崎町 SDGs 推進協議会を設立し、カーボンニュートラルを含むサーキュラーエコノミー実現に向けた「大崎システム」の展開を国内外に推進することを使命として活動しています。

大崎システムでは家庭から発生するゴミを住民が 27 品目に分別リサイクルすることにより焼却炉を一切使用しない環境負荷の低い廃棄物処理を行ったり、町で発生するゴミの 6 割を占める生ゴミ・草木等の有機物を 100%堆肥化、地域の農地に還元することにより、有機物の地域内完全循環も達成しています。



ノウハウの展開として、大崎町では既にインドネシアに技術協力として、廃棄物の分別と有機物の堆肥化技術を伝え、世界で 2 番目にゴミを流出させていると言われているインドネシアにおける課題解決に力を発揮しています。

全ての低所得国が 38%、全ての高所得国が 57%食料廃棄物を堆肥化することで 2050 年までに CO2 排出量換算で 2.3 ギガトンのメタンガスの発生を抑制することができます。大崎町は 100%堆肥化を実現しているので、全ての国が大崎システムを導入することによって更に数倍の温室効果ガス発生抑制効果が期待できます。

大崎町はそれら技術の発展・展開を目指し、今後技術そのものの科学的な検証と、発展に向けた研究開発・実証・実装、それら技術を活用することができる人材の育成、技術や取り組みに関するレポートの作成および情報発信・展開を実施していきます。

[OSAKINI PROJECT 公式 HP](#)